

お金の「知恵」を みにつけよう

Vol.49

あけましておめでとうございます。2024年もお金の問題に、あなたの知恵を活かして向き合っていくヒントを一緒に探っていければと思います。

今回は、年初に考えたい「2024年のお金の重要テーマ」を3つほどあげてみたいと思います。

1) 引き続き物価上昇対策が 重要に

最終的な2023年の消費者物価指数の上昇は執筆時点で明らかになっていませんが、2022年のプラス2.5%前後となることは間違いないものと思われます。だとすれば、2年連続の物価上昇となり、デフレあるいはほぼゼロ%の物価上昇であった数十年から完全に一線を画したということになります。

物価上昇は、原材料費の高騰、運送コストの上昇、人件費の上昇、そして円安などを背景としており、元に戻るものではないと考えておいたほうが良いでしょう（企業も値上げをしないと赤字になってしまい、労働者を雇用し十分な賃金を支払うことができなくなります）。

必要な支出が値上がりしていくことはやむを得ないとしても、ムダな出費、割高な買い物などはしっかりと切り詰めていくことで家計の赤字転落を避けることはできます。若い世代がよくいう

「コスパ」を、毎日の買い物でも意識してみましよう。家計簿による家計の見える化も引き続き行い、筋肉質の家計にしていきたいところです。

2) 金利変動に要注意

物価上昇局面で影響があるものとして、銀行預金金利と借入金金利の上昇があげられます。一部金融機関では長期の高額定期預金について金利を見直し「金利が100倍にアップ」などと話題となっています。といっても、年0.00X%を基準としての100倍ですからまだまだ高金利とはいえません。しかし一部の金融機関はマイナス金利政策の終了が近づきつつあることを見越し、徐々に金利上昇を検討するようになってい

2024年 お金の3つのテーマ

ようです。

こういった時期は「まとまったお金を預けると高金利になる」「長期で預けると高金利になる」という預金の原則を改めて確認をしておきましよう。そして上手に金利見直しの流れを活用したいところです。

むしろ心配なのは住宅ローン金利の変動です。現状の超低金利なローン金利設定は、マイナス金利政策の副産物でもあったため、預金金利の上昇は住宅ローン金利の上昇にもつながります。実際住宅ローンの金利上昇の気配があります。

すでに借りている変動型の住宅ローンについては将来の上昇を見越した見直しも検討したいところです。また、これから住宅ローンを検討している人たちはできるだけ長期の固定金利を選択し

て将来の金利上昇に備えておきたいところです。

3) 継続したい賃上げと、 課題としての退職金アップ

最後の課題は労働組合にもがんばってもらわなければならない課題ですが、実質的な賃上げの継続と、退職金の増額改定へのチャレンジです。

賃上げについては金額がプラスであるだけではなく、物価上昇率見合いでの実質的な上昇率の獲得が必要になっています。2022年の数値でいえば、2.5%を上回ってどこまで伸ばせるかが論点ということです。全体的な賃上げはもちろんですが、個人としてのキャリアアップを通じて大幅な年収増へのチャレンジも今こそがんばってみてください。

そろそろ気にしておきたい課題として、「退職金の賃上げ」があります。

1,000万円のモデル退職金の会社があったとして、物価上昇が2.5%あったのなら、本来的にはモデル1,025万円に引き上げる必要があります。小さな話のようですが、2.5%の物価上昇が5年も続くと、1,131万円が必要で、これを放置すると「退職金の実質目減り」になってしまいます。退職金規程によつては、賃金上昇があれば退職金の算定にも一定程度反映されることもありませんが、1ポイント＝1万円のようなポイント制退職金など、規程を見直さないと増額にならないこともあります。各労組でよく内容を確認し、必要に応じて「退職金の引き上げ」についても労使交渉の課題としておきたいところです。

——以上、3点ほど2024年の勤労者のお金のテーマを紹介してみました。といっても、怖がってばかりではいけません。お金はあなたの人生を明るく楽しくするためのものです。上手にお金とつきあっていきましょう。



◆プロフィール

山崎 俊輔（やまさき しゅんすけ）

・AFP(2級FP技能士)・消費生活アドバイザー
・投資教育家

YouTubeチャンネル

「FPヤマサキのシャープなこんにやくチャンネル 山崎俊輔」
<https://www.youtube.com/@FPyam>